

特別  
対談

## 災害は「常時」と意識して 対策に取り組むべき

### 烏野 猛 × そのだ修光

びわこ学院大学教育福祉学部・  
びわこ学院大学短期大学部 教授  
全国老施協常任理事  
参議院議員



平成30年7月豪雨は、広い地域に多大な被害をもたらしました。高齢者福祉施設にとって災害対策は重要なテーマの一つです。今回は、会員施設の災害時の対応力を向上させるべく、全国老施協にご協力いただいているリスクマネジメントの専門家・烏野猛先生に、高齢者福祉施設のあるべき災害対応や課題について、お話を伺いました。

**烏野** 大きな被害が出た倉敷市真備町でも、川が決壊する前日の昼前に避難準備・高齢者等避難開始が出されているのです。より早期に避難していれば救われた人も多かったでしょう。また、寝たきりの人や障害者がいち早く避難していれば、行政は他の部分に予算や人手、重機などを集中できました。いろいろな制約はありますが、いざ自然災害が「常時のリスク」と意識されるようになり、行政も特養等の施設もより責任が問われることになるはずですよ。

**そのだ** 烏野先生にご尽力いただき、本会は昨年、災害派遣福祉チーム（全国老施協D-WAT）を立ち上げました。

**烏野** 最悪の事態に際した時、自分たちが何ができて何ができないか、会員施設のネットワークでどこまでできるか——これを考えてみよう、というところからスタートしました。今後の発展に大いに期待しています。

**そのだ** 各地の特養は油断なく災害に備え、あわせて全国老施協D-WATの取り組みを充実させる。これにより利用者や職員を安全を確保し、住民と助け合っ地域社会を守っていくという使命を関係者は常時、念頭に置かなければなりません。ぜひ、今後とも力をお貸しください。

**そのだ** 今回の7月豪雨災害で被災された皆さまには、心よりお見舞い申しあげます。近年、地震や噴火のほか、地球温暖化の影響か、猛烈な台風や豪雨も珍しくなくなり、各地に被害をもたらしています。

**烏野** 従来、自然災害の対策は「非

常時」と表現されがちでしたが、私は「非」を取り払い、「常時」と意識して対策を講じていくべきと考えています。

**そのだ** 今回の7月豪雨への対応については、どのようにご覧になりましたか。

**そのだ** 全国老施協としても、会員施設の被災時の対応力を向上させたいと考えています。

**烏野** 過去100年の大きな災害の多くは夜間に発生しています。介護施設であれば職員が手薄な夜勤帯です。夜間には、100床の特養でも

さらに詳しく知りたい方は、ホームページにアクセスしてください。

そのだ修光  検索 または、<https://sonodashuko.com/>



公式LINEアカウント：

<https://page.line.me/psd1500s>

LINEの「友だち追加」より

友だち登録をお願いします！

